

中学生・高校生の漢字を書く力(2)

—やさしい当用漢字などの書き取り—

目 次

I	研究の目的	1
II	調査の概略	2
1	調査の内容	2
2	調査対象者	2
3	調査時期および調査方法	3
4	調査対象漢字ならびに問題(調査I)の構成	3
5	結果の処理	4
III	漢字を書く力の調査と調査の結果	4
1	調査問題 — 調査I	4
2	調査Iの結果	6
IV	漢字を書く力の調査結果の考察	12
1	各人成績の概観	12
2	教育漢字の成績	16
3	当用漢字(備考の漢字)の成績	21
4	訓を書く力	26
V	漢字に対する関心や意見についての調査	28
1	調査問題 — 調査II(その1)	28
2	調査II(その1)の結果	29
VI	訓読みと字の意味の理解の調査	30
1	調査問題 — 調査II(その2)	30
2	調査II(その2)の結果	31
VII	調査IIの結果の考察	32
1	漢字に対する関心や意見	32
2	訓読みと字の意味の理解	33
VIII	まとめと反省	33

I 研究の目的

① 児童・生徒の文字力の低下、語い力の不足が叫ばれて久しい。近年は文部省の全国学力調査も行なわれないので、最近の県下の漢字の読み書きの水準がどうなっているか知らないが、昨年度調査した「中学校生徒の漢字を書く力と問題点^{*}」によって推察してみても、まだ漢字を書く力はじゅうぶんであるとは言えないようである。読解指導は行き届いているせいか、その方面の力はかなりすぐれているのに、その基礎であるはずの漢字の読み書き能力、特に書きの力がよくないというところに、何か奇妙な感じをいただくのである。(注* 研究集録第1集)

漢字書字学習の問題点が、書き取り調査から見い出せないものだろうか。

② 文部省でも、文字力の低下、語い力の不足の現状にかんがみ、漢字の読み書き能力を高めるため、義務教育9年間を見とおして漢字力の向上を図ることになった。すなわち小学校学習指導要領の改訂では、学年別漢字配当表の漢字に加えて直上学年配当の漢字を若干字繰り下げて指導することになり、第6学年では教育漢字以外の当用漢字115字を配当表の備考として示し、小学校の6年間で合計約1,000字の漢字を学習することになった。中学校の学習指導要領改訂案でも、当然漢字指導の強化が図られている。すなわち第1学年からしだいに指導を強め、第3学年では当用漢字の全部を学習させ、特に書くことにおいては「当用漢字別表の漢字および備考の漢字を主として1,000字程度の当用漢字を使いこなすこと」となっている。

現在の児童・生徒はまだ改訂指導要領ならびにそれへの移行措置の影響を受けていない。書くことについて言えば中学校卒業までに教育漢字881字が書けるようになっていればよく、それ以外の当用漢字を書くことは義務づけられていない。当用漢字を書く指導を受けてもその定着に努力はしていないことが多いであろう。しかし習った字は覚えているのもあろうし、正しく書ける生徒もいると予想する。学年別漢字配当表の備考の当用漢字115字(以下、「備考の漢字」という)は当用漢字の中でも最も学習しやすく、かつ重要性のある字であると思われる。これを今の中学生はどれほど書けるのであろうか。またその実態からして移行措置を実施するとき生徒の受容に無理はないであろうか。とにかく備考の漢字を書く力の実態を知りたい。

③ 昨年度は漢字の熟語の書き取りから書字力を調査してみた。したがって音読みの場合の書字力調査であった。訓読みの漢字の書字力はどうか。一般に音に比べて訓は読み書きともに成績が悪いと言われているが、昨年度の調査で5個の漢字の訓を問うたところ、「音」「訓」の意味さえわかっていないと思われるものがあつた。中学生以上の漢字指導には訓・義の指導も大切なのではないだろうか。

④ 昨年度は中学校の2年生だけを対象に書き取りを行なった。中学としての中間的な力は見られるが、変動のほげしい中学時代では1年・3年とともに並べてみると、全体的変動の様子がよく見えるであろう。また、中学校3か年の伸長がそのまま高校に延長されるわけではないが、中学と高校との比較も無意味ではあるまい。小学校の書字力の研究は多くあり、中学生以上の教育漢字の書き取り調査も少なくないが、あえて教育漢字外の当用漢字の一部の書き取りを試みたい。高校生にとってはやさしい

はずである。なお国立国語研究所では中学生の当用漢字全数音訓読み書き調査を行なったが、まだ出版物を見ていない。同研究所年報18により一部を参考にさせていただいた。

前述のような考えから、この調査研究では次のことを目的とした。

中学生・高校生の、やさしい当用漢字および教育漢字を書く力の実態を調べ、学習上の問題点をさぐる。

Ⅱ 調査の概略

調査の規模・内容・方法等については下に記すが、地域・人数・問題構成などの条件から、この調査結果をもって直ちに県下の全般を言う資料とはならないことを、前もってお断わりしておきたい。

1. 調査の内容

(1) 漢字を書く力

備考の当用漢字 50字 (延60字)
教育漢字 25字 (延30字) } 調査Ⅰ

(2) 漢字に対する関心や意見 } 調査Ⅱ
(3) 訓読みと字の意味の理解

調査Ⅰを主たる研究資料とし、調査Ⅱは参考資料とする。

2. 調査対象者

(1) 学 年

中学校 第1・2・3学年

高等学校 第1・2・3学年

(2) 人 員

総数906人。

内訳は右表のとおりである。

(表1) 調査人員

	中 1	中 2	中 3	中学計	高 1	高 2	高 3	高校計
男	86人	75人	89人	250人	86人	73人	72人	231人
女	76	73	88	237	53	66	69	188
計	162	148	177	487	139	139	141	419

(3) 調査協力校

6校 西蒲原郡巻町 巻中学校 県立 巻高等学校
白根市 庄瀬中学校 県立 白根高等学校
新発田市 五十公野中学校 県立 新発田高等学校

それぞれの学校で、各学年から任意の1学級を選んで調査を実施されたが、中学の1校は特に全学級を対象とされたので、(2)の人員となった。なお高等学校は、いずれも普通科で男女共学の学級を任意に選んでいただいた。

3. 調査時期および調査方法

(1) 時期

44年1月10日～20日

(2) 調査方法

1 質問紙調査法

所員または学校の先生が実施監督にあたる。所要時間は50分以内。まず調査Ⅰの用紙(1枚)を配布し、記述開始後25分で回収する。次に調査Ⅱの用紙(1枚)を配布し、記述開始後20分以内で回収する。

4. 調査対象漢字ならびに問題(調査Ⅰ)の構成

(1) 当用漢字

音だけに提出したもの	宇	闊	簡	卷	危	警	劇	
	刻	砂	座	誌	射	尺	将	
	城	針	泉	層	宅	段	班	
	晩	亡	枚	密	優		 26字
訓だけに提出したもの	羽	割	丸	呼	骨	若	笑	
	染	仲	片	宝	忘	裏	矢 14字
音訓両方に提出したもの	映	源	好	困	裁	姿	傷	
	痛	訪	乱				 10字
異り字数								計 50字

(2) 教育漢字 (右下の数字は配当学年を示す)

音だけに提出したもの	意 ³	演 ⁵	温 ³	階 ⁴	察 ⁴	刷 ⁴	雉 ⁵	
	資 ⁶	勢 ⁴	席 ⁴	単 ⁵	頭 ³	難 ⁶	判 ⁶	
	負 ³	暴 ⁶	問 ⁴	来 ²			 18字
訓だけに提出したもの	旗 ⁴	焼 ⁴					 2字
音訓両方に提出したもの	印 ⁴	険 ⁶	側 ⁵	断 ⁶	注 ³		 5字
異り字数								計 25字

(3) 対象漢字の選定

① 当用漢字について

学年別漢字配当表の備考に示された115字は、当用漢字の中でも学習が比較的容易で、かつ使用上からも重要度の高いものとして選定されたものであろう。今後はこの115字が中学卒業までに読み書きともに習熟しているべき字となるであろう。このような重要性から備考漢字を選んだ。

次に115字の書き取り調査実施にはまだ困難が予想されるので、約半分の50字を選んだ。昭和34年発行の文部省著「中学生・高校生の漢字を読む力」の調査には、習得度も重要度もともに高い方から甲級、乙級、丙級に分けて字を示してある。甲級の192字の中には、「備考の漢字」の過半数が含

まれてい、今回調査対象とした50字はその甲級の中から選んだ。したがってこの50字は10年前も今後も重要性のある漢字だといってよからう。

② 教育漢字について

調査問題の構成にあたって、当用漢字と組み合わせられる教育漢字を主として選んだ。教育漢字だけを単独に出題したもの(険, 断, 注, 旗)は、訓を書くためのものである。

(4) 漢字を書く力の調査問題(調査I)の構成

① 対象漢字75字を用いて、音訓合わせて90の書き取り問題とした。

② 書き取りは、短文や語句の中で行なうように問題を構成した。

③ 書き取りの字は、2字連続で一まとまりのことばになるものがあったり、一まとまりのことばの一部分を書くものであったり、

1字で1単語を占めるものもあったり、さまざまであるが、書き取りを含むことばはなるべくやさしいもの、多くの生徒が知っているようなものであることを心かけた。具体的には、⑦前記文部省「中学生・高校生の漢字を読む力」の中の、生徒の反応したことばを参考にし、④坂本一郎氏「教育基本語彙」によってことばとしての重要度の段階を調べた。結果としては「教育基本語彙」の小学校下学年の段階(A1)から中学校で最も重要度の高いもの(C1)までの間におさまった。このことから、書き取りを行なったことばはほとんどむずかしいことばであるとはいえないと思う。それは、中学校1年生から調査するのであるから難解なことばは避けられたからである。その反面高校生にはやさしすぎて、たいくつした者もいたようである。

(表2) 音訓別問題数

	当用漢字	教育漢字	合計
音	36	23	59
訓	24	7	31
合計	60	30	90

5. 結果の処理

調査I(漢字を書く力)と調査II(意見など)との用紙は当教育センターに集め、採点・集計の処理をした。

調査Iの応答の正誤の判定はだいたい次の方針によって行なった。

- 旧字体も正答と認める。
- 字画のつりあいのはなはだしく破れているものは誤りとみる。
- 行草体でまぎらわしく書かれたものは誤りとみる。

このほか、画数の多少や筆画の長短でまぎらわしいものがあるときは、主観によって判定した。

調査IIのうち、訓の記述は当用漢字音訓表にあるものを正答とし、用言の名詞形も正答と認める。

また、漢字の意味の記述は、その字の使い方として最も適当と思われる意味を中心に、正誤を区別した。判断に苦しむものがあった。

III 漢字を書く力の調査と調査の結果

1. 調査問題 — 調査I

調査 I の問題は次のとおりである。

調査 I (書き取り)

次の語句や文の中の に、その上のひらがなを漢字になおして書き入れてください。(か
しよではつきり)

1. ^う ちゆう 宙飛行士
2. 月の ^{うら} ^{がわ} の写真が、新聞や ^{ざつ} ^し に ^{いん} ^{きつ}
- された。 3. 地震のため、 ^{だん} ^{そう} ができたり、 ^{おん} ^{せん} がわき出したりする。
4. 地下 ^し ^{げん}
5. 理科全集第3 ^{かん} に「川の ^{みなと} をさぐる」が書いてある。
6. ^{けわ} しい 坂道
7. 海岸の ^さ きゆう 丘地帯
8. 山の湖水に ^{うっ} っている雲の ^{うた}
- は美しい。 9. 鳥の ^は ばたき
10. ^す きな ^{なか} 間と大阪 ^{じよう} を見に行
- く。 11. ^{わす} れ物は、ハンカチ 2 ^{まい} です。 12. 向こうの ^ざ ^{せき} に
- いる ^{わか} い ^{むめ} 娘たちはよく ^{わら} う。 13. ^や ^{じるし} で示す。 14. 赤く ^そ
- めた布を ^た って 着物をつくる。 15. ^{かい} ^{だん} をふみはずして ^ふ ^{しょう} した。
16. ^{らん} ^{ぼう} に動いたので ^{かた} ほう 方の足の ^{ほね} が折れた。 17. 寒くなって古 ^{きず}
- が ^{いた} む。 18. 植木に水を ^{そそ} ぐ。 19. 父は自 ^じ ^{たく} で ^{しやく} はち ^{はち} 八を吹いて
- います。 20. 毎 ^{まい} ^{ばん} , ^ざ ^{つう} がして ^{こま} る。 病院で ^{ちゆう} ^{しや} をしてくら
- おう。 21. 火事で家が ^{まる} ^や け になった。 22. 大川さんの死 ^し ^{ぼう} じ ^じ 時
- ^{こく} は3時 です。 23. ^{けい} ^{さつ} 署
24. 各 ^{はん} の ^{かか} の ^よ 係りを ^よ び ^ら 集め、
- ^{かん} ^{たん} な 仕事を ^わ り ^あ 当てる。 25. 先輩を ^{せんぱい} ^{ほう} ^{もん} して、 ^{しょう} ^{らい} の
- 方 ^{ほう} ^{しん} を語る。 26. ^{さい} ^{ばん} 所
27. 内 ^{ない} ^{かく} 総 理大臣

28. ^き ^{けん} と ^{こん} ^{なん} がつきまとう ^ひ ^{みつ} の ^{たから} さがしには、参加を ^{こと} わる。
29. きみは ^{こう} ^い 的に ^{そく} 面からほくを助けてくれたね。 30. ^{えい} が ^{えん} 画と
- ^{げき} 31. 大会の ^{ゆう} ^{しょう} 勝者を ^{おとず} れたら、りっぱな ^{はた} があった。
32. 心を ^{みだ} さず、正しい ^し ^{せい} で字を習う。

2. 調査 I の結果

上掲問題の調査結果、各字の成績は次の表のとおりである。

(1) 中学生の書く力の調査の結果

(表3) 中学生の正答・誤答・無答率

<注> 漢字の左の・は訓、右の数字は教育漢字の配当学年を示す。

問題 番号	漢字	1 年			2 年			3 年		
		正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率
1	字	56.8	23.5	19.8	67.6	24.3	8.1	68.4	25.4	6.2
2	・裏	32.1	45.7	22.2	31.1	50.7	18.2	41.2	52.0	6.8
	・側⑤	80.9	13.0	6.2	79.1	6.1	14.9	87.0	9.0	4.0
3	雑⑤	44.4	17.9	37.7	78.4	6.8	14.9	87.0	9.0	4.0
	誌	14.8	47.5	37.7	49.3	32.4	18.2	61.0	34.5	4.5
	印④	48.1	13.6	38.3	70.3	7.4	22.3	79.1	8.5	12.4
	刷④	14.2	14.8	71.0	39.9	12.8	47.3	53.1	17.5	29.4
	断⑥	14.2	22.8	63.0	41.2	20.9	37.8	49.7	27.1	23.2
	層	14.2	21.0	64.8	37.2	19.6	43.2	50.8	20.3	28.8
4	温③	80.2	13.0	6.8	88.5	9.1	3.4	93.8	4.5	1.7
	泉	40.7	34.0	25.3	56.8	27.7	15.5	59.9	28.2	11.9
5	資⑥	67.9	12.3	19.8	70.9	12.8	16.2	81.9	9.0	9.0
	源	66.7	18.5	14.8	74.3	16.2	9.5	76.3	19.8	4.0
6	卷	11.1	34.6	54.3	25.0	39.8	35.1	31.6	42.9	25.4
	・源	49.4	11.1	39.5	58.8	10.8	30.4	71.8	11.3	16.9
7	・險⑥	17.9	22.8	59.3	39.2	18.9	41.9	47.5	35.0	17.5
8	砂	57.4	8.0	34.6	70.9	8.1	20.9	85.3	3.4	11.3
8	・映	4.3	57.4	38.3	6.8	66.9	26.4	21.5	67.2	11.3

問題 番号	漢字	1 年			2 年			3 年		
		正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率
9	・姿	44.4	10.5	45.1	64.2	10.1	25.7	76.8	6.8	16.4
	・羽	59.3	12.3	28.4	70.3	1.4	28.4	72.9	6.8	20.3
10	・好	64.2	7.4	28.4	83.1	4.7	12.2	88.7	1.7	9.6
	・仲	64.8	25.3	9.9	85.1	8.8	6.1	89.8	6.8	3.4
11	城	61.7	13.6	24.7	83.8	8.1	8.1	83.6	11.3	5.1
	・忘	25.9	11.1	63.0	49.3	5.4	45.3	62.1	10.2	27.7
12	枚	63.6	12.3	24.1	77.7	9.5	12.8	79.7	11.3	9.0
	座	40.1	8.0	51.9	73.6	5.4	20.9	87.0	3.4	9.6
13	席④	49.4	17.3	33.3	58.1	11.5	30.4	78.0	9.6	12.4
	・若	71.0	9.9	19.1	84.5	4.1	11.5	85.3	6.2	8.5
14	・笑	40.7	22.2	37.0	56.1	21.6	22.3	71.2	18.1	10.7
	・矢	49.4	19.1	31.5	78.4	9.5	12.2	78.0	15.8	6.2
15	・印④	49.4	16.0	34.6	70.9	4.1	25.0	78.0	11.9	10.2
	・染	2.5	10.5	87.0	23.6	8.8	67.6	44.6	14.7	40.7
16	・裁	0	43.2	56.8	5.4	43.9	50.7	15.8	48.6	35.6
	階④	21.0	25.9	53.1	45.9	25.7	28.4	52.0	19.8	28.2
17	段	25.3	21.6	53.1	40.5	20.3	39.2	48.0	27.1	24.9
	負③	22.8	25.9	51.2	39.9	29.7	30.4	52.0	21.5	26.6
18	傷	8.0	19.8	72.2	21.6	27.7	50.7	15.8	38.4	45.8
	乱	22.1	2.5	75.3	63.5	3.4	33.1	76.3	4.5	19.2
19	暴⑥	7.4	9.9	82.7	24.3	18.9	56.8	41.2	26.0	32.8
	・片	30.2	15.4	54.3	60.8	10.1	29.1	63.8	16.9	19.2
20	骨	35.2	22.2	42.6	77.7	6.8	15.5	83.6	6.8	9.6
	・傷	10.5	16.7	72.8	25.0	21.6	53.4	14.7	36.7	48.6
21	痛	25.9	8.0	66.0	37.2	16.9	45.9	62.7	14.1	23.2
	・注③	43.8	11.1	45.1	40.5	9.5	50.0	55.4	12.4	32.2
22	宅	44.4	21.6	34.0	64.9	14.2	20.9	74.0	16.9	9.0
	尺	37.7	29.6	32.7	63.5	20.9	15.5	57.6	27.7	14.7
23	晚	34.0	40.7	25.3	46.6	31.8	21.6	52.0	30.5	17.5
	頭③	59.3	5.6	35.2	78.4	0.7	20.8	93.2	3.4	3.4
24	痛	23.5	27.2	49.4	35.1	25.0	39.9	65.5	21.5	13.0
	・困	13.6	26.5	59.9	32.4	25.7	41.9	47.5	20.3	32.2
25	注③	47.5	11.7	40.7	62.8	6.8	30.4	67.2	9.6	23.2

問題 番号	漢字	1 年			2 年			3 年		
		正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率
20	射	19.8	33.3	46.9	38.5	27.7	33.8	51.4	26.6	22.0
21	・丸	50.6	8.6	40.7	59.5	6.8	33.8	69.5	13.0	17.5
	・焼④	51.2	24.1	24.7	55.4	21.6	23.0	61.6	23.2	15.3
22	亡	41.4	9.9	48.8	62.8	6.1	31.1	74.0	7.3	18.6
	刻	17.3	31.5	51.2	53.4	20.3	26.4	68.9	24.9	6.2
23	警	6.2	6.2	87.7	45.9	12.8	41.2	39.0	15.9	45.2
	察④	24.7	9.3	66.0	44.6	10.1	45.3	50.3	16.4	33.3
24	班	56.2	19.1	24.7	65.5	15.5	18.9	77.4	15.3	7.3
	・呼	16.7	22.8	60.5	48.0	9.5	42.6	66.7	18.6	19.8
	簡	14.8	16.0	69.1	46.6	15.5	37.8	55.4	16.9	27.7
	単⑤	33.3	6.2	60.5	60.8	8.8	30.4	66.1	11.9	22.0
	・割	50.6	16.7	32.7	65.5	16.9	17.6	82.5	10.7	6.8
25	訪	13.6	31.5	54.9	44.6	22.3	33.1	61.6	18.1	20.3
	問④	30.9	40.7	28.4	37.2	43.2	19.6	46.9	46.3	6.8
	将	11.7	19.1	69.1	45.9	15.5	38.5	40.7	31.6	27.7
	来②	66.7	4.9	28.4	79.7	1.4	18.9	87.0	1.7	11.3
	針	25.3	35.8	38.9	50.7	25.7	23.6	50.3	38.4	11.3
26	裁	3.1	28.4	68.5	23.0	27.7	49.3	46.9	28.2	24.9
	判⑥	18.5	9.9	71.6	48.0	8.1	43.9	69.5	14.1	16.4
27	關	13.0	33.3	53.7	56.8	19.6	23.6	84.2	10.2	5.6
28	危	1.9	31.5	66.7	29.1	33.8	37.2	46.3	37.3	16.4
	險⑥	16.7	30.2	53.1	23.1	37.8	29.1	55.4	32.2	12.4
	困	6.8	19.1	74.1	27.7	30.4	41.9	53.1	23.7	23.2
	難⑥	18.5	17.3	64.2	42.6	22.3	35.1	45.8	33.3	20.9
	密	47.5	11.1	41.4	67.6	12.8	19.6	71.2	10.7	18.1
	・宝	77.2	4.9	17.9	79.7	5.4	14.9	85.9	5.6	8.5
	・断⑥	13.6	3.1	83.3	36.5	1.4	62.2	40.7	3.4	55.9
29	好	30.9	11.7	57.4	54.1	12.8	33.1	63.8	13.0	23.2
	意③	38.9	9.9	51.2	58.8	11.5	29.7	64.4	11.3	24.3
	側⑤	48.8	21.6	29.6	45.9	33.1	20.9	64.4	27.1	8.5
30	映	34.6	26.5	38.9	58.1	14.9	27.0	70.6	14.7	14.7
	演⑤	16.7	20.4	63.0	37.8	18.9	43.2	42.4	24.3	33.3
	劇	8.6	14.8	76.5	30.4	23.6	45.9	33.3	33.9	32.8

問題 番号	漢 字	1 年			2 年			3 年		
		正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率
3 1	優	17.3	27.2	55.6	41.2	27.7	31.1	55.4	28.8	15.8
	・ 訪	9.9	3.7	86.4	31.1	4.1	64.9	52.0	4.5	43.5
	・ 旗④	6.8	37.7	55.6	16.9	48.0	35.1	25.4	45.8	28.8
3 2	・ 乱	14.8	2.5	82.7	37.8	2.7	59.5	55.4	2.8	41.8
	姿	24.7	14.8	60.5	50.0	8.1	41.9	71.2	8.5	20.3
	勢④	9.9	34.0	56.2	23.0	34.5	42.6	36.7	47.5	15.8

(2) 高校生の書く力の調査の結果

(表4) 高校生の正答・誤答・無答率

<注> 漢字の左の・は訓，右の数字は教育漢字の配当学年を示す。

問題 番号	漢 字	1 年			2 年			3 年		
		正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率
1	字	89.2	8.6	2.2	92.8	7.2	0	95.7	4.3	0
2	・ 裏	62.6	35.3	2.2	58.3	41.0	0.7	60.3	39.0	0.7
	・ 側⑤	94.2	5.0	0.7	98.6	0.7	0.7	99.3	0.7	0
	雑⑤	94.2	5.0	0.7	97.8	1.4	0.7	96.5	3.5	0
	誌	79.1	18.7	2.2	92.1	7.2	0.7	91.5	7.1	1.4
	印④	88.5	9.4	2.2	92.8	1.4	5.8	93.6	3.5	2.8
3	刷④	63.3	16.5	20.1	82.9	4.3	12.9	90.1	7.8	2.1
	断⑥	94.2	5.0	0.7	93.5	5.8	0.7	90.1	9.2	0.7
	層	93.5	5.0	1.4	92.8	5.8	1.4	96.5	2.8	0.7
	温③	97.8	1.4	0.7	97.8	1.4	0.7	99.3	0.7	0
4	泉	85.6	12.2	2.2	89.9	9.4	0.7	88.7	9.9	1.4
	資⑥	92.8	2.9	4.3	95.7	3.6	0.7	96.5	2.8	0.7
	源	95.0	4.3	0.7	98.6	1.4	0	94.3	5.0	0.7
5	巻	46.8	39.6	13.7	69.8	23.7	6.5	71.6	23.4	5.0
	・ 源	92.1	2.9	5.0	97.1	1.4	1.4	98.6	1.4	0
6	・ 険⑥	63.3	27.3	9.4	69.1	27.3	3.6	64.5	27.0	8.5
7	砂	97.1	0.7	2.2	100	0	0	98.6	1.4	0
8	・ 映	51.1	46.8	2.2	43.9	54.0	2.2	50.4	47.5	2.1
	・ 姿	92.8	1.4	5.8	99.3	0	0.7	94.3	2.8	2.8
9	・ 羽	84.9	5.0	10.1	88.5	6.5	5.0	92.2	3.5	4.3
10	・ 好	95.7	1.4	2.9	100	0	0	99.3	0.7	0

問題 番号	漢 字	1 年			2 年			3 年		
		正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率
1 0	・ 仲	96.4	3.6	0	98.6	1.4	0	99.3	0.7	0
	・ 城	95.7	3.6	0.7	96.4	2.2	1.4	99.3	0.7	0
1 1	・ 忘	79.1	8.6	12.2	92.1	2.9	5.0	88.7	7.8	3.5
	・ 枚	96.4	1.4	2.2	92.8	5.0	2.2	94.3	4.3	1.4
1 2	・ 座	95.0	2.9	2.2	96.4	3.6	0	95.0	3.5	1.4
	・ 席④	88.5	7.2	4.3	96.4	2.2	1.4	95.7	3.5	0.7
	・ 若	99.3	0.7	0	98.6	1.4	0	99.3	0.7	0
1 3	・ 笑	91.4	5.8	2.9	97.8	2.2	0	96.5	3.5	0
	・ 矢	91.4	7.2	1.4	92.1	6.5	1.4	97.2	2.1	0.7
1 4	・ 印④	88.5	9.4	2.2	93.5	2.9	3.6	90.8	3.5	5.7
	・ 染	79.1	7.2	13.7	68.3	18.7	12.9	83.0	11.3	5.7
	・ 裁	23.0	54.7	22.3	25.2	58.3	16.5	27.0	58.2	14.9
1 5	・ 階④	86.3	9.4	4.3	89.2	10.1	0.7	87.2	9.2	3.5
	・ 段	71.9	23.7	4.3	64.0	33.8	2.2	68.8	27.7	3.5
1 6	・ 負③	77.7	18.0	4.3	83.5	9.4	7.2	87.2	6.4	6.4
	・ 傷	54.0	36.7	9.4	49.6	43.9	6.5	63.1	29.8	7.1
	・ 乱	71.4	0.7	7.9	99.3	0	0.7	99.3	0	0.7
	・ 暴⑥	64.0	21.6	14.4	79.9	13.7	6.5	83.7	13.5	2.8
	・ 片	94.2	2.2	3.6	93.5	3.6	2.9	97.9	2.1	0
1 7	・ 骨	95.0	3.6	1.4	98.6	1.4	0	97.9	2.1	0
	・ 傷	59.0	29.5	11.5	50.4	43.9	5.8	65.2	28.4	6.4
	・ 痛	81.3	10.8	7.9	88.5	6.5	5.0	89.4	4.3	6.4
1 8	・ 注③	69.1	5.0	25.9	77.0	10.8	12.2	83.0	4.3	12.8
1 9	・ 宅	88.5	7.9	3.6	89.9	5.8	4.3	94.3	2.1	3.5
2 0	・ 尺	86.3	9.4	4.3	85.6	12.2	2.2	90.8	7.1	2.1
	・ 晚	87.1	5.0	7.9	92.1	2.9	5.0	92.2	2.8	5.0
	・ 頭③	100	0	0	100	0	0	98.6	0.7	0.7
	・ 痛	85.6	10.8	3.6	93.5	5.0	1.4	94.3	4.3	1.4
	・ 困	74.8	11.5	13.7	71.9	17.3	10.8	80.9	7.8	11.3
2 1	・ 注③	87.8	2.2	10.1	94.2	0.7	5.0	94.3	0.7	5.0
	・ 射	70.5	23.0	6.5	70.5	25.9	3.6	80.1	16.3	3.5
	・ 丸	77.7	17.3	5.0	80.6	15.8	3.6	84.4	13.5	2.1
	・ 焼④	84.9	9.4	5.8	89.9	8.6	1.4	87.2	10.6	2.1

問題 番号	漢 字	1 年			2 年			3 年		
		正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率
2 2	亡	88.5	2.9	8.6	97.1	0.7	2.2	97.9	1.4	0.7
	刻	87.8	8.6	3.6	94.2	5.8	0	90.8	7.8	1.4
2 3	警	80.6	10.1	9.4	78.4	8.6	12.9	90.1	6.4	3.5
	察④	85.6	7.9	6.5	81.3	10.1	8.6	87.2	9.2	3.5
2 4	班	78.4	14.4	7.2	92.1	6.5	1.4	82.3	15.6	2.1
	呼	88.5	4.3	7.2	87.1	10.1	2.9	93.6	5.0	1.4
2 5	簡	77.7	12.2	10.1	83.5	8.6	7.9	88.7	5.7	5.7
	单⑤	88.5	5.0	6.5	89.9	2.9	7.2	87.2	6.4	6.4
	割	90.6	6.5	2.9	98.6	1.4	0	96.5	1.4	2.1
	訪	82.0	4.3	13.7	92.1	2.2	5.8	90.1	3.5	6.4
	問④	43.2	49.6	7.2	49.6	46.0	4.3	44.0	51.8	4.3
2 6	将	65.5	24.5	10.1	74.8	20.1	5.0	80.1	12.1	7.8
	来②	96.4	1.4	2.2	99.3	0.7	0	95.0	1.4	3.5
	針	59.0	36.7	4.3	83.5	15.1	1.4	79.4	17.7	2.8
	裁	70.5	18.7	10.8	74.8	21.6	3.6	83.0	14.2	2.8
	判⑥	90.6	5.8	3.6	96.4	2.9	0.7	95.0	2.1	2.8
2 7	閣	79.1	9.4	11.5	92.1	5.8	2.2	97.2	1.4	1.4
2 8	危	64.7	23.7	11.5	76.3	20.9	2.9	76.6	19.9	3.5
	險⑥	65.5	28.1	6.5	61.2	37.4	1.4	65.2	31.2	3.5
	困	72.7	16.5	10.8	74.1	17.3	8.6	80.1	14.9	5.0
	難⑥	69.1	25.9	5.0	74.1	22.3	3.6	68.1	28.4	3.5
2 9	密	94.2	2.2	3.6	97.8	1.4	0.7	95.7	2.1	2.1
	宝	96.4	2.2	1.4	99.3	0.7	0	97.2	1.4	1.4
	断⑥	69.1	5.0	25.9	68.3	7.9	23.7	77.3	6.4	16.3
	好	69.8	21.6	8.6	66.9	29.5	3.6	78.7	17.7	3.5
	意③	75.5	17.3	7.2	65.5	32.4	2.2	80.9	15.6	3.5
3 0	側⑤	89.9	8.6	1.4	88.5	7.2	4.3	94.3	3.5	2.1
	映	93.5	5.0	1.4	92.8	5.0	2.2	98.6	0.7	0.7
	演⑤	71.9	15.8	12.2	77.7	19.4	2.9	83.7	13.5	2.8
3 1	劇	63.3	25.2	11.5	71.8	25.2	2.9	80.1	16.3	3.5
	優	72.7	19.4	7.9	87.8	12.2	0	78.7	19.9	1.4
	訪	79.1	2.2	18.7	90.6	3.6	5.8	87.9	3.5	8.5
	旗④	46.8	40.3	12.9	51.8	40.3	7.9	63.8	33.3	2.8

問題 番号	漢 字	1 年			2 年			3 年		
		正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率	正答率	誤答率	無答率
32	・乱	81.3	0.7	18.0	95.0	0	5.0	94.3	1.4	4.3
	姿	87.1	3.6	9.4	95.7	0.7	3.6	94.3	0	5.7
	勢④	48.9	36.0	15.1	61.9	28.8	9.4	66.0	22.7	11.3

Ⅳ 漢字を書く力の調査結果の考察

1. 各人成績の概観

(1) 正答字数(90字中)の平均——全体的成績

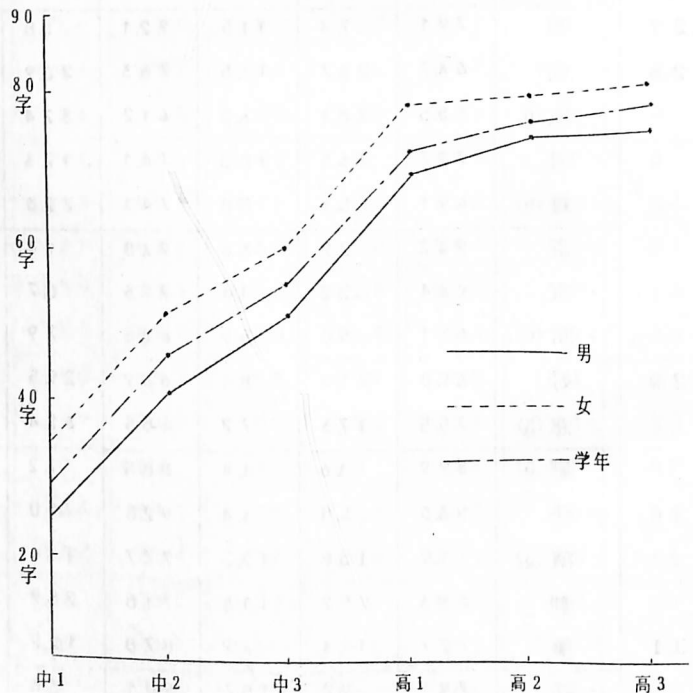
調査Iの書き取り問題90字中の正答字数の平均は(表5)のとおりである。(図1)はこの平均を図にしたものである。

(表5) 正答字数の平均 (90字の中)

	中1	中2	中3	平均	高1	高2	高3	平均
男	24.7字	41.9字	51.0字	39.2字	68.9字	73.6字	74.7字	72.2字
女	34.4	51.2	59.9	49.0	77.8	78.7	81.2	79.4
平均	29.2	46.4	55.4	44.0	72.3	76.0	77.9	75.4
標準偏差	18.8	23.8	20.7		13.5	9.0	10.2	

① 中学と高校の成績

中学の総平均44字(90字の約49%)に対し高校の総平均は75字(約83%)で、約30字(約33%)の差がある。近年高校入学率も高くなってきたとはいえ、選抜された者が高校にはいつてくるのであるから、両者の開きは当然出てくるであろう。それは中学3年と高校1年との開きの大きいことに端的に現われている。(表5)によれば中1~中2の差は17字で大きい、中2~中3の差は小さくなって9字程度である。また高1~高2~高3の学年間の差は4字、2字程度で、たいへん小さい。これらに対して中3~高1の差は17字で、たいへん大きい。それはこの時期の自然的な



(図1) 学年男女別正答字数

成長以上に、選抜された者が学習しているということの影響があるにちがいない。

もっともこの差は問題それ自身からも生じてくる。いうまでもなく当用漢字は、中学では新出文字として3年間にわたって提出されるものである。したがって1年、2年では未習の字も多いし、漢字の提出数や漢字学習量に応じて成績に高低も生じてくるであろう。また現行指導要領では中学で当用漢字を書けるようにとは要請されていないから、書き取りの意識は強くないかも知れない。このように中学は当用漢字習得の時期であるのに対して、高校は既に習った当用漢字を確実にしていく時期である。まして当用漢字の中でも重要度の高い方にある50字を主とする書き取り問題では、高校の成績がよいのは当然であろう。成績の分布も、高校の方が中学よりも平均のまわりに集中している。

なお、昭和32年1月に文部省が全国138の中学校・高等学校で実施した調査「中学生・高校生の漢字を読む力」(P55~56)を参考にしてみよう。それは当用漢字969字に教育漢字31字を加えた合計1000字の読みについて調べたもので、その全体成績は右掲の表のとおりである。中学校では学年間の差は約10%であるのに、中学3年と高校1年との差は、16%と大きな開きを見せている。しかも、高校の学年間の差は、わずか2~3%にすぎない。

読みにおけるこのような大規模な調査結果と、小規模な90字書き取り調査の結果と比べてみると、学年間の差の傾向や、中学全体と高校全体との差が約30%であること

など、たいへんよく似ていることに興味を覚えるが、「中学と高校との間には、」「一般的にいて決定的な差がある」と、読みの方で認められることが、書きの方でも認められるであろう。

② 学年の成績

本調査の結果だけをもとにしていけば、平均字数の学年間の差は中1~中2が17字で最も大きく、中2~中3が9字でこれに次ぐ。高1~高2~高3はそれぞれ4字、2字であるから、高校では学年の差はきわめて少ないといえる。中3~高1の開きについては①で述べた。

(図1)でもわかるように、中学では学年が高くなるとともに正答字数の増加がめざましい。特に1年から2年にかけて飛躍的に増加している。読み書きの力は、中学では普通、3年になって大きく伸びると予想していたが、この書き取り調査では予想とちがって、中学1年の終わりごろから2年の終わりごろにかけて、さらにいえば、中学2年のとき書く力は大いに伸びることを物語るようである。そして上掲(参考1)の表でも、中1~中2の差が中2~中3の差よりも大きく、つまり読みの力も中学2年のとき最も伸びることを示しているから、読み・書きともに符節を合わせたような感じをいできるのである。ただし字数・人数・規模とともに調査問題がちがえば、異った様相が見られるかも知れないので、断定は避ける。

国立国語研究所で行なった「中学生の漢字習得に関する研究」の一部を、同研究所年報18(P42~48)から引用する。まず、「当用漢字を読み書きする力は、このように従来の調査・整理方法

(参考1) 漢字を読む力の正答率

<注> 文部省調査より抜書

	中学校	高等学校	
調査校数	77校	61校	
調査人数	21,380人	15,270人	
正 答 率	1年	40.4	79.4
	2年	53.2	82.3
	3年	63.4	84.4
	全体	52.4	81.8

でみると、中学の入学時から2年時を経て、しだいにのび、卒業時までには相当数の習得が認められる。」とある。また教育外当用漢字(969字)の読み書きについては、「従来の整理法に従えば、かなり読み(平均96.9%)書き(66%)できるが、個人差が相当強く、上限と下限の差、読み(84字)書き(450字)である。」「総じて、第6回卒業時の調査では、教育漢字・教育外当用漢字ともに予想外に読み書きの力がついたような結果がみられたが、これは、中学3年間の国語学習—漢字学習の結果、一般読書その他からの自然習得などによるとと思われるが、高校進学に対処して、3年で、漢字学習の重点的指導が行なわれていること(中略)、生徒も進学にそなえて、漢字学習に身を入れたということがあずかって力あったようである。教育漢字の書き、教育外当用漢字の読み、特にそれが顕著であるようである。」と。中学3年での伸びを認めているようであるが、(参考2)の表だけでは各学年後期の比較ができないので、2年での伸びが大きいのか、3年での伸びが大きいのか明らかでない。

高1~高3の差の小さいのに比べてみて、中学では入学以後卒業まで、「相当」量の漢字習得がなされたこと、またなされることわかる。

(参考2) 教育外当用漢字の成績 <注> 国立国語研究所年報18より抜書

調査時	読 み (969字)			書 き (969字)		
	第 1 回 (入学時)	第 3 回 (2年前期)	第 6 回 (3年卒業時)	第 1 回	第 3 回	第 6 回
8人平均	538.0字 (55.5)%	793.1 (81.9)	939.4 (96.9)	169.6 (17.5)	336.6 (34.7)	640.0 (66.0)

③ 男女の成績

(表5)の正答字数の算術平均および(図1)の男女別字数を見ると、中学校では各学年とも約100字(11%)ずつ女子の方が男子より高い。高校では中学よりは差は小さくなって5~9字(5~10%)になるが、やはり女子が男子より成績がよい。このことから、本調査では、各学年とも女子は男子より平均して成績がよい、といえる。

これを前記文部省の「中学生・高校生の漢字を読む力」と比較してみよう。文部省のは調査全体の中から、中学も高校もそれぞれ同じ答案を100部ずつを無作為に抽出して調べたものである。(参考3)で見ると、女子の方が男子よりも中学、高校で2.3%、2.2%高い。本調査ほどの差はないが、やはり女子が男子より成績がよいといえよう。また(参考3)から、男子に比べて女子の方は、習得のはなはだしく劣るものも少ないが、はなはだしくすぐれたものも少ないということになる。これは今回の調査でもあてはまるかも知れないが、標準偏差までまだ計算していない。

(参考3) 漢字を読む力の男女別成績

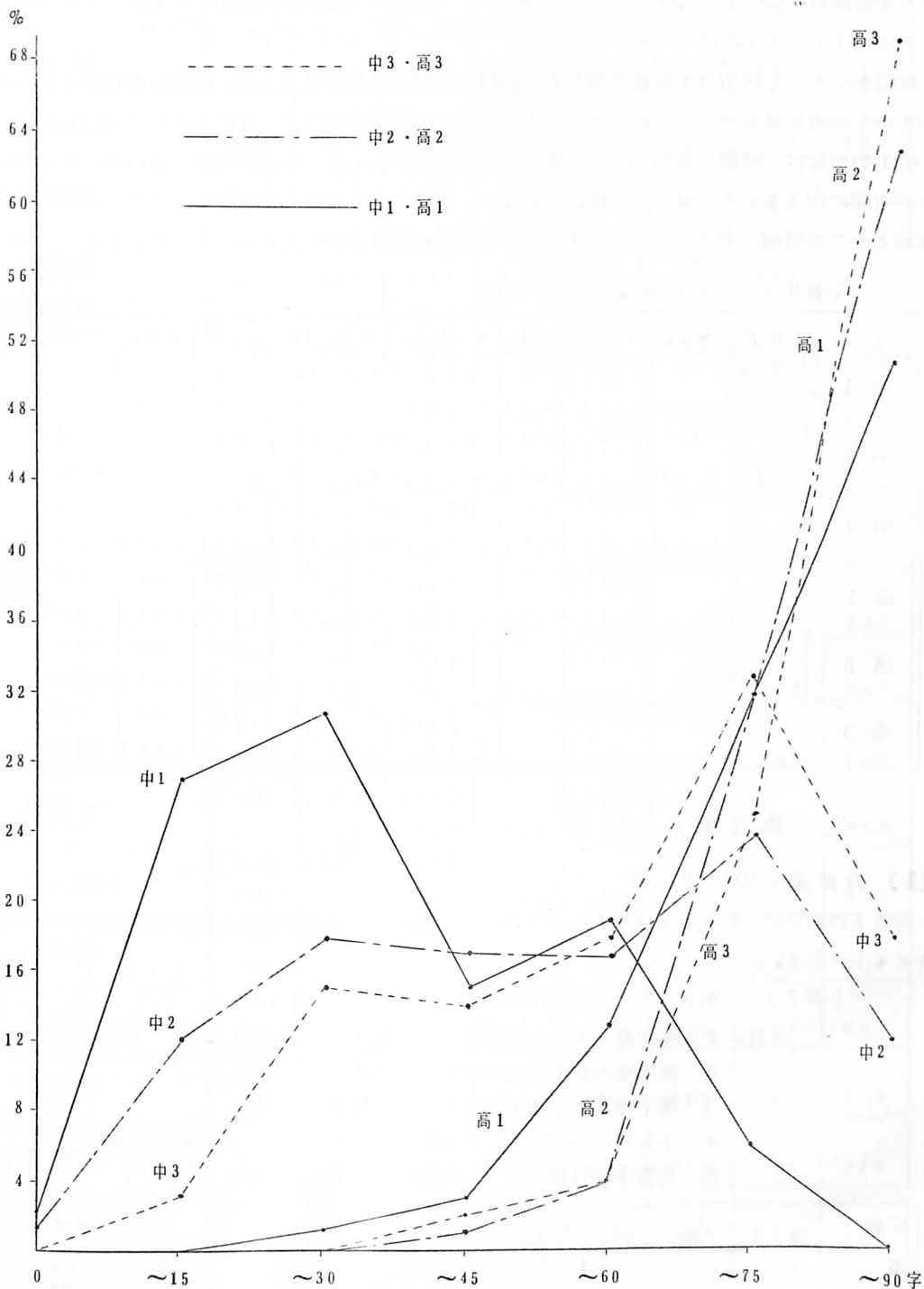
<注> 文部省調査より抜書

	中 学 校		高 等 学 校	
	正 答 率	標 準 偏 差	正 答 率	標 準 偏 差
男	50.86	26.00	80.64	15.56
女	53.16	23.40	82.86	12.36

(図1)でわかるように、漢字の成績の学年的発達を示す曲線の形には、男子と女子との差はほとんど見られない。

(2) 各人の成績の分布

漢字の各人成績の分布状態を見るため、正答字数を段階別に見ると(表6)および(図2)になる。



(図2) 学年別正答人数(%)

0字(0点)は中1に3人(男2,女1),中2に1人(男)いるだけで,他学年にはいない。遂に90字(満点)は中学では3年に1人(男)だけ,高校は1年2人(男1,女1),2年2人(女)合計5人いて,3学年にはいない。

段階をこまかく区切って曲線を描くと,曲線の進行は乱れて見えるが,曲線の進行をなだらかにして大まかな傾向を見るため,(図2)では15字ずつの段階に区切り,%になおして表わした。

中1の曲線は,成績の低い方に山が寄り,中2,中3としないで山は成績の高い方へ寄っていく。中学が中間に山をもっているのに高校は山がなく,中ほどこから出発して成績の高い方へ曲線が急上昇する。高校としては問題がやさしかった。それにしては高校に満点が4人しかいないことはさびしい。

(表6) 漢字成績の分布状況

	0字	~10	~20	~30	~40	~50	~60	~70	~80	~90	計
中1	3人 (2)%	26 (16)	35 (22)	33 (20)	15 (9)	24 (15)	16 (10)	8 (5)	2 (1)		162 (100)
中2	1 (1)	13 (9)	9 (6)	22 (15)	14 (9)	19 (13)	17 (11)	23 (16)	21 (14)	9 (6)	148 (100)
中3		2 (1)	10 (5)	20 (11)	15 (9)	17 (10)	23 (13)	38 (21)	37 (21)	15 (9)	177 (100)
高1			1 (1)	1 (1)	1 (1)	7 (5)	14 (10)	26 (19)	44 (31)	45 (32)	139 (100)
高2						3 (2)	5 (4)	26 (19)	52 (37)	53 (38)	139 (100)
高3					1 (1)	5 (4)	3 (2)	12 (8)	47 (33)	73 (52)	141 (100)

2. 教育漢字の成績

(1) 教育漢字の成績一覧

調査Iの結果の一覧表(表3)(表4)のうち,教育漢字の正答率を,漢字音による50音順に並べかえて下に示す。

(表7) 教育漢字の成績表(50音順)

- <注> 1. 漢字欄の大字が当該漢字である。
 2. 漢字欄の数字は配当学年を示す。
 3. 漢字欄および高1欄の・は訓を示す。
 4. 正答率,中1,中2,中3欄の()の数は,文部省の調査による。
 5. 正答率,高1欄の()の数は文化庁の調査による。

問題 番号	漢 字	正 答 率			中学 平均	正 答 率			高校 平均
		中1	中2	中3		高1	高2	高3	
29	③好意的	(81) 38.9	(82) 58.8	(90) 64.4	54.2	75.5	65.5	80.9	74.0

問題 番号	漢 字	正 答 率			中学 平均	正 答 率			高校 平均
		中1	中2	中3		高1	高2	高3	
2	④印刷	(49) 48.1	(55) 70.3	(74) 79.1	66.1	(85.8) 88.5	92.8	93.6	91.6
13	・④矢印	49.4	70.9	78.0	66.3	88.5	93.5	90.8	90.9
30	⑤演劇	(49) 16.7	(54) 37.8	(74) 42.4	32.4	(76.9) 71.9	77.7	83.7	77.8
3	③温泉	(79) 80.2	(72) 88.5	(85) 93.8	87.7	97.8	97.8	99.3	98.3
15	④階段	(63) 21.0	(73) 45.9	(85) 52.0	39.8	86.3	89.2	87.2	87.6
31	・④りっぱな旗	(40) 6.8	(39) 16.9	(67) 25.4	16.6	(51.8) 46.8	51.8	63.8	54.2
28	⑥危険	(47) 16.7	(54) 23.1	(65) 55.4	35.7	(81.3) 65.5	61.2	65.2	64.0
6	・⑥険しい	17.9	39.2	47.5	35.1	63.3	69.1	64.5	65.6
2	④印刷	(27) 14.2	(45) 39.9	(65) 53.1	36.1	(75.9) 63.3	82.9	90.1	78.8
23	④警察署	(48) 24.7	(56) 44.6	(71) 50.3	40.0	(82.5) 85.6	81.3	87.2	84.7
2	⑤雑誌	(63) 44.4	(69) 78.4	(86) 87.0	70.4	94.2	97.8	96.5	96.2
4	⑥資源	(43) 67.9	(69) 70.9	(77) 81.9	73.9	(79.2) 92.8	95.7	96.5	95.0
21	・④丸焼け	(60) 51.2	(68) 55.4	(81) 61.6	56.3	84.9	89.9	87.2	87.4
32	④姿勢	(48) 9.9	(59) 23.0	(76) 36.7	23.6	(53.3) 48.9	61.9	66.0	58.9
12	④座席	(79) 49.4	(81) 58.1	(88) 78.0	62.4	88.5	96.4	95.7	93.6
29	⑤側面	(70) 48.8	(68) 45.9	(84) 64.4	53.6	89.9	88.5	94.3	90.9
2	・⑤裏側	80.9	79.1	87.0	82.5	94.2	98.6	99.3	97.4
24	⑤簡単	(76) 33.3	(79) 60.8	(86) 66.1	53.6	88.5	89.9	87.2	88.5
3	⑥断層	(35) 14.2	(46) 41.2	(70) 49.7	35.3	(92.9) 94.2	93.5	90.1	92.6
28	・⑥断わる	13.6	36.5	40.7	30.4	69.1	68.3	77.3	71.6

問題 番号	漢 字	正 答 率			中学 平均	正 答 率			高校 平均
		中1	中2	中3		高1	高2	高3	
20	③注射	(75) 47.5	(80) 62.8	(91) 67.2	59.3	87.8	94.2	94.3	92.1
18	③水を注ぐ	43.8	40.5	55.4	47.0	69.1	77.0	83.0	76.4
20	③頭痛	(86) 59.3	(88) 78.4	(95) 93.2	77.4	100	100	98.6	99.5
28	⑥困難	(45) 18.5	(48) 42.6	(69) 45.8	35.7	(74.4) 69.1	74.1	68.1	70.4
26	⑥裁判所	(44) 18.5	(48) 48.0	(74) 69.5	46.0	90.6	96.4	95.0	94.0
15	③負傷	(68) 22.8	(77) 39.9	(87) 52.0	38.6	77.7	83.5	87.2	82.8
16	⑥乱暴	(31) 7.4	(44) 24.3	(62) 41.2	24.8	64.0	79.9	83.7	75.9
25	④訪問	(72) 30.9	(76) 37.2	(84) 46.9	38.6	43.2	49.6	44.0	45.6
25	②将来	(86) 66.7	(87) 79.7	(94) 87.0	78.0	96.4	99.3	95.0	96.9

(2) 成績の学年の差

(表7)の教育漢字の得点を平均すると、中学全体で49.9%、高校は82.5%の成績であり、高校が33%もよくできる。既に(表5)の各人成績の平均でも見たように、高校と中学では大幅な開きがあるが、教育漢字の成績についても同様である。さらに(表8)によって学年の差を見よう。

学年の高まるにつれて成績の上

昇することは当然であるが、中1から中2へかけての上昇が大きい。

また中3と高1の間には大きな開きが見えることも他の場合と同様

である。また、高校では差が少ない。

(表8) 教育漢字の学年別成績(30字の正答率)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
平均	35.5%	51.3	61.8	79.2	83.2	84.8
学年の差	15.8	10.5	17.4	4.0	1.6	

個々の字についてみると、「温」「側(訓)」「問」「来」など学年差のあまり大きくないものもあるが、ほとんどの字は差が大きく、ことに中3と高1との間には「階」「察」「断」のように30%以上も開いているものもある。中1でひじょうに成績の悪い「旗」「勢」「暴」や「断」「判」などが、中2にかけてめざましく上昇しているが、やはりこの1~2年の学習が重大なことを思わせる。

ひるがえって学習指導要領の示すところに照らして考える。中学校では教育漢字の全部が書けるように努め、卒業までには「使いこなす」ところまでいかなければならない。(表8)の数が881字の書字率をも示すと仮定すれば、中1は「書けるように努め」てはいるのであろうが小学校の目標にも達していないことになるし、中3は1月から3月までの伸びを見込んでもまだ不足のようである。文部省

の全国的調査でも中3が100%になってはいないが、目標に少しでも近づかなければならない。高校ではもちろん100%書けるようでありたい。

(3) 文部省，文化庁の調査との比較

わずか25字30題の書き取りの結果を他と比較するのもどうかと思われる点もあるが、大規模な調査と比較することによって当方の位置や水準が察せられよう。幸いに文部省，文化庁の資料と同字が若干あるので比較してみたい。

(表9) 文部省・文化庁との比較(教育漢字の正答率)

	中1	中2	中3		高1
文部省(25字)	58.6	64.7	79.2	文化庁(10字)	75.4
当方(25字)	34.3	50.9	61.8	当方(10字)	72.7

(表7)の漢字音の提出箇

所に、中学1～3年には文部省「児童生徒の漢字を書く能力とその基準」(27年発行)に掲載されている教育漢字の正答率

を併記した。文部省の調査は昭和25～26年に実施されたものであり、調査の方法ももちろん同一ではない。しかし教育漢字全部について、小1～中3の正答率が示してあるから、これを全国的水準とみて当方の教育漢字を比べてみる。

25字の正答率の平均は(表9)のとおりで、当方は文部省に比べて各学年ともひじょうに低い成績である。各字について比較すれば、「印」「資」のわずか2字が文部省よりいくらか高いが、他はすべて低い。1年生には、特に成績のよくない「旗」「勢」「暴」などがあるので、文部省との差の大きいのが目につく。昨年度、2年生11学級418人の漢字書字調査を行なったが、そのうちの教育漢字78字の正答率はやはり文部省より低く43.5であった。今回の調査25字の2年生の正答率は50.9であるから、数字の上では昨年よりも向上したことになるが、それでも文部省の1年生より低い。

次に、(表7)の高1の欄には、文化庁よりいただいた資料「昭和43年度漢字の習得状況に関する調査——当用漢字調査の50音順成績表」から、必要箇所の数字を借用して併記した。文化庁の調査は高等学校第1学年の生徒(全国10都道府県、59校、5036名)を対象に実施されたもので(1字あたりの調査人員は888人)、高校生対象であること、大規模であること、平均的な学力が見られること、かつ最新の資料であることから、当方の調査を比較してみるのにはたいへんよい資料であった。ただ当方の小規模な調査では、残念ながら比較できる教育漢字はわずか10字であった。

10字の正答率の平均は(表9)のとおりで、文化庁のに比べてわずか2.7%の低さであることから、当方の高校1年生はだいたい全国水準に近い成績であろうと思われる。しかしこのことは後述の当用漢字の比較と合わせ考えてみなければならない。

(4) 成績のよい字，わるい字

(表7)の中には、高1，高2の「頭」のように100%書けた字もあるが、また、全員が書けなかったという字もない。この調査の中から成績のよい字，わるい字を選んでみたいが、まず中学で平均してよい方から10位までをぬき出してみると、温，側(訓)，来，頭，資，雑，印(訓)，印，席，断，注の順となる。高校では頭，温，側(訓)，来，雑，資，判，席，断，注の順となる。中・高両者に共通して順位の高い方から並べると(1)温，(2)頭，側(訓)，(3)来，(4)雑，資，(5)席，(6)注となる。これを成績の最もよい字としておく。これらは身近なことばとして使われることが多いからであろうか、

配当学年や字画の多少に特色があるとも思われぬ。「資」は文部省調査よりも成績がよいが、現在は昔よりは資源・資格などと身近なことばになってきたのであろうか。「側」は音よりも訓がよかつたのは、「裏側」が「側面」よりも坂本氏の「教育基本語彙」では重要度が高く（ことばがやさしく）なっているように、語彙としての重要度のちがいによるのであろう。

成績のわるい字も、よい字と同様にして選ぶと、まず中学では旗（訓）、勢、暴、断（訓）、演、険（訓）、断、険、難、刷の順となり、高校では問、旗（訓）、勢、険、険（訓）、難、断（訓）、意、暴、注（訓）の順となる。両者共通で順位の高い方から選ぶと(1)旗（訓）、(2)勢、(3)断（訓）、(4)険（訓）、(5)険、(6)暴、(7)難の順になる。（図3）に誤答例を示す。

最もわるい「旗」は4年配当の字であり、坂本氏の「教育基本語彙」でも小学校下学年の語（A1）であるからやさしいと思っていたが、中1では無答が5.6%もあり、中3でも2.9%もある。高校では無答が少なくなるが、中学でこのように無答が多いことは、小学校でも定着のむずかしい字となっていたのであろう。国立国語研究所の研究でも「中学終了時まで習得が完了しなかった教育漢字の読み書き」の書きの例に「旗」があげられている。（同研究所年報による。）誤答は中・

旗	旗 旗 旗 旗 旗 旗 旗 旗
勢	勢 勢 勢 勢 勢 勢 勢 勢
断	断 断 断 断 断 断 断 断
険	険 険 険 険 険 険 険 険
暴	暴 暴 暴 暴 暴 暴 暴 暴

（図3） 教育漢字誤答例

高とも3.3～4.8%もある。（図3）の例のように「其」が記憶の中心をなしているのはよいが、その他の部分の認識が不じゅうぶんなのが多い。このような字画のあいまいさは文字使用の機会の少なかつたためであらうか。文部省調査でもあまりよくなく、文化庁調査の高1は文部省の中3よりも低い。

「勢」も文化庁の高校が文部省の中3よりも低くなっている。本調査では中1、中2に無答が4.2～5.6%もあるのはどうしたことか。「姿勢」も基本語彙としては小学校下学年の語（A1）であるのに「正」「整」「生」などをあてているのは、漢字の意味をわきまえないためであらう。

「断」の訓がよくない。中学では音も成績がよくないが、誤答・無答を比べてみると、誤答は音に多く、無答は訓に多い。もともと6年配当の字であるうえに字画もこみ入っているので、学習が定着しにくく、特に1年の正答が少なかつたのであろうが、音はしだいに正答・誤答がふえているから、字形はわりあい思い出せると思われる。訓は1～3年とも1～3%の誤答で、無答が8.3～5.6%と圧倒的に多いのは、訓から字形への想起がよくないからであらう。学習順序から考えると、「断」の字形・字音のほかに字訓・字義の学習が不じゅうぶんであつたと思われる。高校は中学よりは無答が減り正答が増すが、誤答はやはり5～8%と少ない。中学と同様、字形想起不じゅうぶんによるものではなく、訓の意味想起不じゅうぶんによるものであろう。つまり、字（形）を知らないのではなく、意味を知らないであらう。なお、「断」は中学では音・訓ともによくないが、高校では訓がわるいのに音はよい方10位以内である。断層ということばの理解程度のちがいからであらうか。

「険」「暴」「難」は中1では6年配当の字で学習不じゅうぶんのせい、無答が多い。2年3年と

しだいに無答が減り正答と誤答がふえていく。誤答では「暴」「難」は字画の不正確が多いが、「険」には同音の異字も多い。険とともに検、験、剣などの訓や字の意味の理解・定着が望まれる。なお「暴」「難」は国語研究所の調査では習得未完了の例にあげられている。

3. 当用漢字（備考の漢字）の成績

(1) 当用漢字（備考の漢字）の成績一覧

調査Ⅰの結果の一覧表（表3）（表4）のうち、当用漢字の正答率を、漢字音による50音順（ただし当用漢字音訓表に音の掲げられていない字は、最後に訓で示した。）に並べかえ、かつ高1には文化庁の調査による正答率を付記した。

表紙に掲げた副題の「やさしい当用漢字」とは、小学校の改訂学習指導要領に示された学年別漢字配当表の「備考」に示された当用漢字115字を意味し、この調査の対象にした50字は、「備考の漢字」の中でもさらにやさしいと予想した字である。

（表10） 当用漢字（備考の漢字）の成績表（50音順）

- <注> 1. 漢字欄の大字が当該漢字である。
 2. 漢字欄および高1欄の・は訓を示す。
 3. 正答率高1欄の（ ）の数は、文化庁の調査による。

問題 番号	漢 字	正 答 率			中学 平均	正 答 率			高校 平均
		中1	中2	中3		高1	高2	高3	
1	宇宙	56.8	67.6	68.4	64.3	(85.7) 89.2	92.8	95.7	92.6
9	・羽ばたき	59.3	70.3	72.9	67.6	(95.6) 84.9	88.5	92.2	88.5
30	映画	34.6	58.1	70.6	54.8	(93.6) 93.5	92.8	98.6	95.0
8	・映る	4.3	6.8	21.5	11.3	51.1	43.9	50.4	48.4
27	内閣	13.0	56.8	84.2	52.2	(93.0) 79.1	92.1	97.2	89.5
24	・割り当てる	50.6	65.5	82.5	66.7	(98.6) 90.6	98.6	96.5	95.2
5	第3巻	11.1	25.0	31.6	22.8	(48.1) 46.8	69.8	71.6	62.8
24	簡単	14.8	46.6	55.4	39.2	(85.9) 77.7	83.5	88.7	83.3
21	・丸焼け	50.6	59.5	69.5	60.3	(98.0) 77.7	80.6	84.4	80.9
28	危険	1.9	29.1	46.3	26.3	(70.4) 64.7	76.3	76.6	72.6
23	警察署	6.2	45.9	39.0	30.2	(68.6) 80.6	78.4	90.1	83.1
30	演劇	8.6	30.4	33.3	24.2	(70.2) 63.3	71.8	80.1	71.8

問題 番号	漢 字	正 答 率			中学 平均	正 答 率			高校 平均
		中1	中2	中3		高1	高2	高3	
4	資源	66.7	74.3	76.3	72.5	95.0	98.6	94.3	95.9
5	・川の源	49.4	58.8	71.8	60.4	92.1	97.1	98.6	95.9
24	・呼び集める	16.7	48.0	66.7	44.4	(89.1) 88.5	87.1	93.6	89.7
29	好意的	30.9	54.1	63.8	49.9	69.8	66.9	78.7	71.8
10	・好きな	64.2	83.1	88.7	78.9	・(96.3) 95.7	100	99.3	98.3
22	時刻	17.3	53.4	68.9	46.0	(75.1) 87.8	94.2	90.8	93.3
16	・足の骨	35.2	77.7	83.6	65.7	・(95.3) 95.0	98.6	97.9	97.1
28	困難	6.8	27.7	53.1	30.0	(64.2) 72.7	74.1	80.1	75.7
20	・困る	13.6	32.4	47.5	31.6	74.8	71.9	80.9	75.9
7	砂丘	57.4	70.9	85.3	71.7	(95.0) 97.1	100	98.6	98.6
12	座席	40.1	73.6	87.0	67.4	(94.6) 95.0	96.4	95.0	95.5
26	裁判所	3.1	23.0	46.9	25.1	(79.3) 70.5	74.8	83.0	76.1
14	・布を裁つ	0	5.4	15.8	7.4	23.0	25.2	27.0	23.6
2	雑誌	14.8	49.3	61.0	42.1	(80.2) 79.1	92.1	91.5	87.6
32	姿勢	24.7	50.0	71.2	49.3	87.1	95.7	94.3	92.4
8	・雲の姿	44.4	64.2	76.8	62.2	92.8	99.3	94.3	95.5
20	注射	19.8	38.5	51.4	37.0	(84.9) 70.5	70.5	80.1	78.5
19	尺八	37.7	63.5	57.6	52.8	(85.1) 86.3	85.6	90.8	87.6
12	・若い	71.0	84.5	85.3	80.3	・(98.3) 99.3	98.6	99.3	99.0
15	負傷する	8.0	21.6	15.8	15.0	54.0	49.6	63.1	58.0
17	・傷が痛む	10.5	25.0	14.7	16.4	・(44.4) 59.0	50.4	65.2	58.2
25	将来	11.7	45.9	40.7	32.6	(75.3) 65.5	74.8	80.1	73.5
12	・笑う	40.7	56.1	71.2	56.5	・(87.6) 91.4	97.8	96.5	95.2
10	大阪城	61.7	83.8	83.6	76.4	(93.9) 95.7	96.4	99.3	97.1

問題 番号	漢 字	正 答 率			中学 平均	正 答 率			高校 平均
		中1	中2	中3		高1	高2	高3	
25	方針	25.3	50.7	50.3	42.1	・(93.5) 59.0	83.5	79.4	74.0
3	温泉	40.7	56.8	59.9	52.6	(89.2) 85.6	89.9	88.7	87.8
14	・染める	2.5	23.6	44.6	24.2	(60.7) 79.1	68.3	83.0	76.8
3	断層	14.2	37.2	50.8	34.5	(59.9) 93.5	92.8	96.5	94.3
19	自宅	44.4	64.9	74.0	61.4	(80.7) 88.5	89.9	94.3	90.9
15	階段	25.3	40.5	48.0	38.2	(83.7) 71.9	64.0	68.8	68.3
10	・仲間	64.8	85.1	89.8	80.1	・(97.0) 96.4	98.6	99.3	98.1
20	頭痛	23.5	35.1	65.5	42.3	85.6	93.5	94.3	91.2
17	・傷が痛む	25.9	37.2	62.7	42.7	・(76.0) 81.3	88.5	89.4	86.4
24	各班	56.2	65.5	77.4	66.7	(84.4) 78.4	92.1	82.3	84.2
20	毎晩	34.0	46.6	52.0	44.4	(78.5) 87.1	92.1	92.2	90.5
16	・片方の足	30.2	60.8	63.8	51.7	94.2	93.5	97.9	95.2
25	訪問する	13.6	44.6	61.6	40.5	82.0	92.1	90.1	88.1
31	・訪れる	9.9	31.1	52.0	31.6	79.1	90.6	87.9	85.9
28	・秘密の宝	77.2	79.7	85.9	81.1	96.4	99.3	97.2	97.6
22	死亡	41.4	62.8	74.0	59.8	88.5	97.1	97.9	94.5
11	・忘れ物	25.9	49.3	62.1	46.2	79.1	92.1	88.7	86.6
11	2枚	63.6	77.7	79.7	73.7	96.4	92.8	94.3	94.5
28	秘密	47.5	67.6	71.2	62.2	94.2	97.8	95.7	95.9
31	優勝者	17.3	41.2	55.4	38.4	72.7	87.8	78.7	79.7
16	乱暴	22.1	63.5	76.3	54.4	91.4	99.3	99.3	96.6
32	・心を乱す	14.8	37.8	55.4	36.6	81.3	95.0	94.3	90.2
2	・月の裏側	32.1	31.1	41.2	35.1	62.6	58.3	60.3	60.4
13	・矢印	49.4	78.4	78.0	68.6	・(83.1) 91.4	92.1	97.2	93.6

(2) 成績の概観

(表10)の成績をまとめると(表11)になる。

この調査90字全部の成績の傾向および教育漢字の成績の傾向と同様のものが、ここでも見られる。すなわち、①中1～中2の上昇は顕著であり、中2～中3がこれに

(表11) 備考の漢字の学年別成績(60字の正答率)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
平均	51.0%	51.6	62.2	80.9	85.1	87.4
学年の差	20.6	10.6	18.7	4.2	2.3	

次く。高校での上昇はきわめて少ない。②中3～高1の差は大きく、中学全体と高校とでは発達の様相がちがうように見える。

高校は各学年ともどの字もよい成績をとって、高2では「好き」「砂」に100%のものもあるが、中学には全体でも30%未満のものが10字もある。教育漢字では30%未満は「旗」「勢」「暴」だけであるから、出題の割合を考えても低成績の字が多くなっていることがわかる。それで、当用漢字は困難のように見える。しかし、この調査の範囲で見ると、各学年の平均成績においては中1の当用漢字が教育漢字に劣るだけで、他学年はすべて当用漢字の方がまさっている。これはどういうわけであろうか。当用漢字はやさしいのだろうか。

これについて次のように考えてみた。一口にいえば、中学生以上は当用漢字の学習生活をしているからだ。中学校の教科書は小学校のように漢字の初出学年をきめてはいない。だからいつでもどこでも使いたいと思えば1850の中からどれでも使う。国語で習ったことがなくても他教科では遠慮しない。生徒はまるで当用漢字の大海にほり出されたようなもので、板きれ一枚でも木の枝一本でもとりすがって浮かび、やがてそれをわがものにして自由に使うようになる。そこで、いつのまにか当用漢字が身についてくる。ただ中学1年は、それまで育てられた教育漢字の温室から出たばかりだから、周囲に充滿しているものも消化しきれなくとまどう。これが中1の当用漢字の成績の低い理由であろう。次に、中2以上は当用漢字に接することが多くなり、日常身近なものとなり、教育漢字に対するよりも意識が強くなるのではなからうか。新出文字、難語句といっても当用漢字について行なわれ、教育漢字の指導はあとまわしになるのではないか。このようなことから当用漢字の方が成績がよくなることがあると思われる。第三にこの調査の漢字は最も習得が容易で、かつ使用度も高い字だからであろう。文部省ではこのような文字として115字を選んだのであろうし、この調査の数字はその反映ではなからうか。

さて以上は推測にすぎないが、このわずかな調査から、備考漢字(その中の50字に限定したいが)の書き取りを中学生に行なうことは無理であるかどうかを考えてみると、①2年3年は50～60%の成績を予習することなしに得ていること。②先に述べたように中・高校生の各学年とも教育漢字の書き取りよりも成績がよいことから、そう無理ではないと思う。現行の学習指導要領では、教育外当用漢字を書く力は要請されていないが、当用漢字の中にはある種の教育漢字よりかなりよく書けるものがあると、国立国語研究所の研究で述べてある。そこに例示された忙、趣、巡などよりも、今回の調査の「岩」「仲」「宝」の方がずっと習得にも容易で、定着しているであろう。また日常の学習効果をあげるため当用漢字の読みだけでなく書きの練習も行なっている学校もあるので、書く力はかなりあると推察される。しかし、いま、当用漢字のどれでも書き取りを行なってもよいと簡単に言うわけにいかない。高校

でもなかなか定着しにくい字もあるので、やさしい、基本的な漢字なら無理はあるまい。そして、特に中学1年に対しては、指導の内容方法を研究して無理のないようにしなければなるまい。

(3) 文化庁の調査との比較

高校1年を対象に文化庁で調査した漢字成績の中から、当用漢字で同じ字種のもを(表10)に併記したが、その38字について平均した成績を比べてみる。文化庁の平均は81.7であるのに対し、当方の38字の平均は81.8であるから、当方の高1は文化庁調査の水準と同等であると考えられる。先に見た教育漢字では少し文化庁のが高いが、両方合わせても大体近似の水準と見てよからう。

「針」は文化庁に比べて当方は3.4%も低い、文化庁のが訓でやさしいことはだからであろう。

「層」はどちらも音であるが文化庁が3.3%低い。「傷」はどちらも訓であるが文化庁が1.5%低く、「巻」は音(当方)訓(文化庁)とも低い。

(4) 成績のよい字、わるい字

(表10)の中学平均から成績のよい字を順番にぬき出すと、宝(訓)、若(訓)、仲(訓)、好(訓)、城、枚、源、砂、矢(訓)、羽(訓)となる。高校平均からよいのをぬき出すと、若(訓)、砂、好(訓)、仲(訓)、宝(訓)、城、骨(訓)、乱、源、源(訓)となる。中・高に共通して成績のよいのを順に並べると、(1)若(訓)、(2)宝(訓)、(3)好(訓)、仲(訓)、(4)砂、(5)城、(6)源となる。いずれも身近かな文字であり、字画の構造もむずかしくない。やさしい字とってよいであろう。

成績の悪い字も同様にして選び出すと、中学では裁(訓)、映(訓)、傷(訓)、傷、巻、劇、染(訓)、裁、危、警、困となる。高校では裁(訓)、映(訓)、傷、傷(訓)、裏(訓)、巻、段、好、劇、危となる。両者に共通するのを悪い順番に並べると、(1)裁(訓)、(2)映(訓)、(3)傷、傷(訓)、(4)巻、(5)劇、(6)危となる。(図4)に誤答例を示す。

「裁」は音もよくないが訓はことに悪く、中1は0である。坂本氏「基本語彙」では「裁判」も「裁つ」もともに小学校上学年で同程度の語(B1)であるが、今日では「裁つ」という語は日常から遠くなっているのではあるまいか。中学1・2年は大ざっぱにいて誤答と無答と半々である。高校になるとさすがに無答は減るが誤答は半ばを越している。誤答の大部分は例に示したように立、断、建で、同音異字をあてている。立、建、は全くの間に合わせと思われるが、多少意味を考えていると思われるのは断、切、などであろう。織や機などは

裁	立断建切織(裁裁)
映	写移映映,(英映絵)
傷	傷傷傷復傷賜勝
巻	巻善監鑑管官館刊
劇	劇劇劇劇
危	危危危禁気気機

(図4) 当用漢字誤答例

着物や布などから前後をつなげたのであろうが、裁の意味も織の意味も知っていないと思われる。裁に似せて書いているのは意味を知っているのであろうが、誤答の中では数が多くない。結局、中・高を通じて「たつ」の意味と「裁」の字の意味とをよく知っているものが少ないといえよう。音の書き取りで

は裁に似ている誤字が多い。

「映」の訓は「基本語彙」では小学校下学年の語(A1)であるが、「うつる」を書き表わすとき写と映の使用区別がむずかしいのではなからうか。中3・高校で正答が増してはいるが、誤答が中学・高校とも50%を上下しているのはそのためではないだろうか。「映画」となれば高校はほとんどができ、中学の誤りは「へん、つくり」の字画の過不足が多い。「移」の誤答は、移の意味も映の意味もともにわからないのではないかと思わせる。文脈からも推測できなかったのか、わかっても映を忘れたので移を代用したもののか。

「傷」は音訓ともによくない。中学では無答が多く、高校では誤答が30~40%程度ある。中高とも誤答はほとんどが字画の誤りである。「人べん」については想起できても、「つくり」は似かよっている字との混交が多い。画数が多いから筆記訓練をするとともに、易は発音が別であることも気をつけさせるとよいのではなからうか。

「巻」も字画の紛らわしいところがあって、上部の中央に線が出なかつたり、養の上部を書いたりするものが多い。巻地区の学校にも協力願ったので訓を避けたが、さすがに養の上部と誤るものは少なく、中1などは調査後、あの字なら正しく書けたのにと残念がったものもいたそうである。全部を通じて、同音の監、管、鑑、館などが多かったが、親しみの少ない語だったのかも知れない。

「劇」は読むのはやさしくても、書くのは中学としてはめんどろであろう。ところが高校になると正答が一挙に倍近くにはね上がるのは、高校の学習にこの文字が多く使われるようになり、また演劇クラブなどもあって文字が生活にはいりこんできたのではないだろうか。

「危険」は小学校下学年でも重要な語(A1)であるから知ってはいても、筆記に手数のかかる字を正しく身につけるのは、危のつくことば、険のつくことばなどがくりかえし学習されてからであろう。「危」の無答は中1に多かったのが学年とともに急激に減り、正答が急増していく。誤答は形の不全によるものが多い。

その他高校で誤りの多かった「好(意的)」は行為との誤解が多く、「段」は「へん・つくり」の不正確によるものが多い。「裏」は里が発音を示していることを意識すればもっと正解が増すであろう。

4. 訓を書く力

(1) 漢字の読み書き調査について

文部省の「中学生・高校生の漢字を読む力」の調査では、「各字の成績の単純集計は、当用漢字表に認められている音訓のうち一つだけできていれば正答として計算する方法をとることとした。」とある。このような方法は、多くの漢字調査で行なわれていることと思われ、国立国語研究所の調査でも、「……表で読めた(正答)というのは、従来の漢字調査の結果と比較するために1字のもつ音訓をすべてつくして読めたという数でなく、音訓すべてにわたって読めたものはもちろん、音訓どちらか読めたものも入れた数字であり、当用漢字を読み書きする力は、このように従来の調査・整理の方法でみると……」と、ある調査の結果を説明している。

このような調査・整理のしかたは、今までわたしどもが行なってきた漢字調査にもあてはまるのであった。当用漢字なり教育漢字なりの全数読み書き調査を行なう力はないので、部分的調査しか行なわな

かったが、その提出文字にしても音訓すべてにわたってはいなかった。「就任」を書かせても「成就」を書かせなかったし、「生きる」を書かせても「生まれる・生の野菜」までは及ばずに、就、生の字の成績や個人成績を論ずる結果になっていたのである。今回の調査もまたある字の音訓すべてにわたって調査するという目的ではなかったので、提出された音訓の結果をもってその字の音訓の成績としておきたい。

(2) 訓の成績

音と訓とは、読み書きともどちらが成績がよいか、ということはなかなかめんどうなことである。普通には音の方が訓よりは成績がよいと言われているようであるが、学習量などの関係はどうなのであるか。そこまでは当方としては研究する余裕がない。去年は熟語の書き取りだったから訓の書き取りはなかった。今回は訓も加え、そのうち14字は音訓両方に出題したが、単純な集計しかできなかった。

① 90字中の音訓

(表12) 音と訓との成績

	中学	高校
音(59字)	48.4%	84.3%
訓(31字)	49.7	82.4
音(両出 14字)	46.3	84.6
訓(" 14字)	43.5	76.7

まず全90題の中の59字の音と31字の訓との成績はどうであろうか。字数が同じでないし、同字の音訓の比較でもないので適当ではないかもしれないが、前記(1)の調査方法が一般に行なわれているなら、この単純な算術平均で一応の成績の比較を言うことも許されよう。(表12)によれば、中学では訓の方が成績が少しよく、高校では音の方が成績が少しよいことになる。従って音訓の優劣を簡単に

にきめるわけにはいかない。

(表13) 音訓両出字の比較

	音		訓	
	中	高	中	高
⑤ 側	53.6	90.9	82.5	97.4
源	72.5	95.9	60.4	95.9
⑥ 険	35.7	64.0	35.1	65.6
映	54.8	95.0	11.3	48.4
姿	49.3	92.4	62.2	95.5
好	49.9	71.8	78.9	98.3
④ 印	66.1	91.6	66.3	90.9
裁	25.1	76.1	7.4	23.6
傷	15.0	58.0	16.4	58.2
痛	42.3	91.2	42.7	86.4
③ 注	59.3	92.1	47.0	76.4
困	30.0	75.7	31.6	75.9
⑥ 断	35.3	92.6	30.4	71.6
乱	54.4	96.6	36.6	90.2

② 音訓両出字の比較(14字)

同一の漢字に音訓両様が定められているとき、音訓いずれがよく書けるだろうか。ここでは①の音59字と訓31字の両方に出ている14字について比較してみる。ただし音訓はそれぞれ一つに限った。

各字の成績を平均すれば(表12)のように中学・高校とも音の方がよい。しかし14字の個々についてみれば、(表13)のように訓の方がよいのは中学では、側、姿、好、印、傷、痛、困、の7字あり、高校では、側、険、姿、好、傷、困、の6字があり、字数では音訓それぞれ同程度となり優劣がつけにくい。

③ ことばの重要度(難易)から

また、ことばとしてやさしいのが音訓いずれにせよよく書けるのであろうか。

音の方の側面、好意は中学校程度の語彙(C1)であるのに訓の方の裏側、好きは、小学校程度の語彙だから、訓がよく書けたのかもしれない。そうかと思う

と、優の訓は音より、断の音は訓よりそれぞれ語彙としての重要度が低い（つまりむずかしいことばである）のに、重要度の高いもの（つまりやさしいことば）よりもよく書けるという結果が現われている。わずかな例だけであるが、ここでは基本語彙としての重要度（難易）が直ちに書字力の優劣にはならず、同時に音訓書字の難易にはならない、と推定しておく。

④ 他の調査から

国立国語研究所の調査（年報18，P58～61）から、少し形をかえて引用してみる。

（参考4）は、7校について調査した教育漢字の書き方の正答率の表から音訓両出の字を抜き出し、私にその平均を算出したものである。

（参考4） 音訓の比較 <注> 国立国語研究所年報より抜書

音	①底辺	②救助	③低気圧	④除外	⑤減少	⑥供給	平均
	61.6	54.3	72.4	52.9	63.4	68.6	62.2
訓	川の①底	②救う	③低い	④除く	⑤減る	子⑥供	平均
	76.1	52.3	73.0	61.8	58.6	93.2	69.1

わずか6例しかないが、平均正答率は訓の方がよく、個々の字についても訓の方によい字が多い。この例では、訓の語は漢語よりもやさしいと思うのに、救う、減る、が救助、減少よりも成績が悪くなっているのが例外的である。結局ここでは訓が音よりもよく書けるということになる。

(3) 音訓の書きの優劣

以上の実態をまとめてみると、

- 音訓両出14字の平均成績では、音の書きがよい。

- 国語研究所の調査では、訓の書きがよい。

- 両出14字も含めた音59字、訓31字の平均成績は、中学では訓がよく、高校では音がよい。

というようになり、いかにも不安定である。これは全数調査を行なったのでないから、その時々調査問題によっていろいろな結果が現われたのではないだろうか。従ってここでは両者の優劣を結論することはまだ不じゅうぶんであるとしておきたい。しいて言うなら、対象の字によって優劣の差があるというべきか。

同じ生徒に対し、同じ調査用紙の中でも、異なる字やことばの組み合わせによって、同一の音や訓に対する反応がちがってくる。生徒の学習量によってもある字に対する難易はちがうであろうし、音訓の比較は問題が多いように思う。ただ国語研究所が研究したように、読み書きとも音訓の習得にアンバランスがあることは否定できない。

V 漢字に対する関心や意見についての調査

1. 調査問題 一 調査Ⅱ（その1）

調査Ⅱのうち、漢字に対する関心や意見などについての調査問題は次のとおりである。なお、調査中のⅠの1～4の形式は国立国語研究所年報一18（P63～）に掲載のものから一部を借用し、その極めて少部分を変更したものである。

調 査 II (意見など)

I 次のことについてあなたの考えや気持ちを答えてください。(ア、イ……の1つに○をつける)

- あなたは本や新聞などを読んでいて、読みかたのわからない漢字がありますか。
 ア よくある イ ときどきある ウ あまりない エ ない
 オ 気がつかない
- あなたは漢字をおぼえるのは、むずかしいと思いますか。
 ア むずかしい イ それほどでもない ウ やさしい
 漢字の読みでは ア むずかしい イ それほどでもない ウ やさしい
 漢字の書きでは ア むずかしい イ それほどでもない ウ やさしい
- あなたは漢字の学習がすきなほうですか。
 ア すき イ すきなほう ウ あまりすきでない エ きらい
- あなたは漢字の学習について、どのように考えますか。
 ア 漢字の読み書きすることは、国語の学習の基礎になるから大事だと思う。
 イ 漢字の読み書きよりも、国語の学習として、もっと大切なことがあると思う。
 ウ 漢字の読み書きよりも、英語や数学の学習に力を入れたほうがよいと思う。

II 次の漢字のうち、(1) 学校で習ったことのある字(書けなくてもよい)には、下の学校らんに○を記入してください。また、(2) 教科書以外の本やテレビなどで見たことのある字には、下のテレビらんに◎を記入してください。(1)と(2)は重なることがあってもかまいません。

	字	羽	映	閣	割	巻	簡	丸	危	警	劇	源	呼	好	刻	骨	困	砂
(1)学 校																		
(2)テレビ																		
	座	裁	姿	誌	射	尺	若	将	笑	傷	城	針	染	泉	層	宅	段	角
(1)学 校																		
(2)テレビ																		
	痛	班	晩	片	宝	訪	亡	忘	枚	密	矢	優	乱	裏				
(1)学 校																		
(2)テレビ																		

2. 調査 II (その1)の結果

漢字に対する関心や意見についての調査の結果は、次の表のとおりである。ただし、IIについては問いに無理があったり、記入されたものにも納得しがたいものがあるので、ここに記録しない。Iについて

てだけ記す。

(表14) 漢字に対する関心や意見

問		中1	中2	中3	中学平均	高1	高2	高3	高校平均
1. 読めない字	ア よくある	32.1%	28.4%	22.0%	27.3%	19.4%	14.4%	15.6%	16.5%
	イ ときどきある	56.8	52.7	62.1	57.5	59.7	54.0	61.0	58.7
	ウ あまりない	9.9	16.9	14.7	13.8	18.0	25.8	19.9	21.6
	エ ない					1.4	1.4	2.8	1.9
	オ 気がつかない	1.2	0.7	1.1	1.0	1.4	4.3	2.1	2.6
	無答		1.4		0.4				
2. おぼえる	ア むずかしい	43.8	27.7	42.5	38.5	36.0	26.6	31.9	31.5
	イ それほどでもない	46.9	64.9	53.1	54.6	56.1	69.1	53.9	59.6
	ウ やさしい		1.4	5.6	0.6	2.2	2.9	6.4	3.8
	無答	9.3	6.1	3.9	6.4	5.8	1.4	7.8	5.0
(読み)	ア むずかしい	12.3	15.5	10.7	12.7	10.1	10.1	9.9	10.0
	イ それほどでもない	74.7	66.9	79.1	73.9	69.1	69.8	68.1	69.0
	ウ やさしい	9.9	16.2	10.2	11.9	20.8	20.2	20.6	20.5
	無答	3.1	1.4		1.4			1.4	0.5
(書き)	ア むずかしい	67.3	47.3	59.3	58.3	58.3	47.5	61.7	55.8
	イ それほどでもない	28.4	48.0	40.7	38.8	39.6	48.2	31.2	39.6
	ウ やさしい	1.2	3.4		1.4	1.4	4.3	5.6	3.8
	無答	3.1	1.4		1.4	0.7		1.4	0.7
3. 漢字学習	ア すき	2.5	3.4	4.5	3.5	5.0	3.6	4.3	4.3
	イ すきなほう	19.1	20.9	21.5	20.5	25.2	25.9	20.6	23.9
	ウ あまりすきでもない	63.0	64.2	63.3	63.4	48.9	59.0	49.6	52.5
	エ きらい	15.4	11.5	10.7	12.5	20.9	11.5	25.5	19.3
	無答								
4. 大事なものの	ア 漢字は基礎だ	76.5	81.1	81.4	79.7	82.7	80.6	77.3	80.2
	イ 国語の他の面を	19.8	10.1	13.0	14.4	15.1	14.4	12.8	14.1
	ウ 漢字より英数を	3.7	7.4	5.6	5.5	1.4	5.0	9.2	5.3
	無答		1.4		0.4	0.7		0.7	0.5

Ⅵ 訓読みと字の意味の理解の調査

1. 調査問題 一 調査Ⅱ(その2)

調査Ⅱのうち、訓の読み方を問う問題と、漢字の意味を問う問題とは次のとおりである。(その1)と(その2)とは同一の用紙である。

Ⅲ 次の漢字の訓を書いてください。(例 新——あたらしい 学——まなぶ 国——くに)

印—— 険—— 側—— 断—— 注——
 勢—— 頭—— 難—— 負—— 問——
 危—— 刻—— 射—— 城—— 優——

Ⅳ (時間があったら書いてください)

次の〔 〕内の熟語に共通する___線の漢字の意味を書いてください。

例 〔重傷：負傷〕の傷→けが(きずと答えてもよい)

〔暴力：暴動〕の暴→ 〔温泉：温帯〕の温→
 〔晩春：晩秋〕の晩→ 〔劇業：劇務〕の劇→

<注>Ⅳは、中学生には任意とし、高校生にはみんなに記述を求めた。

2. 調査Ⅱ(その2)の結果

上掲(その2)の問題のⅢ訓読みとⅣ漢字の意味の理解の調査の結果を次に記す。ただし正答率だけを掲げる。

(表15) 訓の読みの成績

字	中 1	中 2	中 3	中学平均	高 1	高 2	高 3	高校平均
印	76.0	75.6	77.4	76.4	85.6	90.7	88.7	88.1
険	27.8	43.3	67.8	46.9	83.6	90.6	88.7	87.6
側	56.9	60.8	72.9	63.9	74.2	80.6	66.6	73.7
断	27.2	41.9	58.8	43.1	86.4	95.0	94.4	91.9
注	45.2	53.4	71.8	57.3	92.8	97.9	96.5	95.7
勢	47.6	60.8	69.0	59.4	95.0	97.2	97.2	96.3
頭	93.8	94.5	98.3	95.8	95.7	97.1	97.9	97.0
難	2.5	0.7	1.7	1.6	10.8	5.8	4.3	6.9
負	79.6	75.0	91.4	82.6	95.7	96.4	97.9	96.7
問	34.6	58.1	75.2	56.5	92.7	95.8	95.8	94.7
危	0.6	8.8	11.9	7.2	19.4	16.5	14.2	16.7
刻	2.5	22.5	42.3	23.0	82.7	91.4	91.5	88.5
射	10.5	22.3	19.8	17.5	33.1	44.6	47.5	41.8
城	82.2	92.5	94.9	90.0	99.3	99.3	99.3	99.3
優	11.1	34.5	43.5	30.1	49.6	61.9	67.4	59.7

(表16) 漢字の意味の成績 <注> 中学生の応答は任意であるが、全員が応答したと見なして正答率を計算した。

字	中 1	中 2	中 3	中学平均	高 1	高 2	高 3	高校平均
暴	13.6 %	18.9 %	24.9 %	19.3 %	53.3 %	54.7 %	64.6 %	57.5 %
温	34.0	46.6	59.3	46.9	91.4	92.1	93.7	92.4
晩	2.5	6.8	23.7	11.5	46.8	69.7	70.9	62.5
劇	0.6	2.8	7.9	3.9	30.9	40.3	54.6	42.0

Ⅶ 調査Ⅱの結果の考察

1. 漢字に対する関心や意見

(1) 漢字に対する関心

本や新聞などを読んでいて、読みかたのわからない漢字が「よくある」が、中1に多くその後しだいに減るのは、自然のなりゆきであろう。現今の刊行物は、原則として、当用漢字のワク内で表記されているのだから、読むのはやさしいはずであるが、「ときどきある」が中学で60%近くあるのは仮にしかたがないとしても、高校も同程度というのはどうしたものだろう。調査に対して遠慮があるかもしれないが、「よくある」と「ときどきある」と合わせて75%もあることは、当用漢字の中で習得しにくいもの——日常あまり関係が深くない字の音訓など——が残っているのであるだろうか。文化庁の高1に対する読み書き調査の中には、習得率の低い字がいくつか現われている。そんな字がときどき現われたらどうするのだろうか、辞書をひくとか、人にきくとかして、読めるようにしないのであろうか。中1～高3まで「ときどき」組みが減らないのは、案外わからないままにすましておくのことが多いのではなかろうか。

読めない字が「ない」と答えたのは、少ないながらも高校生の自信を表わしているようである。「気がつかない」は、読めない字がなくて気がつかないか、または無関心なのであろう。が幸いにこれは多くない。

以上の項目で中学の応答状況は、国語研究所の中学7校の応答と大体同じである。

漢字をおぼえるのは「それほどでもない」が、53～60%ほどいるが、読みと書きとに分けると、やはり読みは70～80%も「それほどでもない」のに、書きはその半分くらいになる。そして逆に「むずかしい」が書きにふえる。書きの難易感は、中・高ほとんど変わらないが、書き取りの結果は調査Iのようにはっきりした差になってくる。

(2) 漢字学習に対する意見

漢字を書くことのむずかしさが、漢字学習が「あまり好きでない」「きらい」につながるであろう。70%ほどいる。

国語研究所の中学の応答は、ア・72.5%、イ・17.3%、ウ・2.8%で、当方の調査と傾向は同じであるが、漢字を国語学習の基礎と考えているのは当方がやや多い(80%)。しかし、読み書きよりも英語・数学に力を入れたいものも当方に多い。ともあれ多くのものが漢字学習の意義を認めながら、漢字学習が好きでないことは、指導の問題となろう。

昨年度の調査に対して、小学校では漢字に興味をもたせると読み書きの力はぐんと伸びる、と意見を寄せられた方があった。中学校でも高校でも漢字に対する興味関心を高めて「好き」にさせ、書字力が一段と増すようにしたいものである。もっと欲をいえば、「好き」といわなくても「よく書ける」ようになってほしい。

(3) 既習得の字の調査

各字に対する生徒の関心意識や、習得経験をさぐる参考にしたいと思ったが、応答状況からみてなかなか分析できないので、集計は省略する。

2. 訓読みと字の意味の理解

(1) 訓読み

漢字の訓読みがどれほどできるであろうか。訓がわかれば漢字の意味は理解するのに便利である、との考えから出題した。

教育漢字の訓の書き取りに出題した印、險、側、断、注、のよみを出したが、中学では險、断の正答が少なかった。文字一つだけ出すとわかりにくいのであろう。

当用漢字では「難」が中・高とも10%以下で悪い。「かたい」という訓は現代的でないからか。調査Iの音の書きは中学が35%、高校が70%だった。「危」は「あぶない」と答えたのが多い。やはり「あやうい」は文語的というのだろうか。「優」は優勝や優秀などにひかれた答えが多かった。

城・頭は中・高ともによくできている。

(2) 漢字の意味

訓の認められてない字の意味を問うてみた。中学では「温」を「あつい」としたのものもあるが、温海などの地名を思い出したものか、あるいは「熱」と思いちがいをしたか。「晩」「劇」はむずかしかったが、熟語としての使い方から意味を察してもらいたかった。字義の理解が熟語の書き取りに役立つであろうことを思っている。

Ⅳ まとめと反省

以上、教育漢字25字(延30字)と当用漢字の中の備考の漢字50字(延60字)の書き取り調査の結果を見てきたが、書き取りの実態と問題点をまとめると、次のようになる。

- a 全体の成績は、高校にはやさしく、中学には大体中程度のものであった。
- b 高校と中学との差は大きく、学年の発達は中学1年から2年にかけてが大きい。また女子は男子より各学年とも成績がよい。
- c 教育漢字の書字力は指導要領の目標からいえば、中学・高校ともまだ不じゅうぶんである。

- d 備考の漢字は高校にやさしく，中学2年3年にはむずかしいというほどではないと思う。1年は少しむずかしいが，今後小学校で指導を受ければ習得にはたいして困難ではあるまい。
- e 書き取りの誤答には，字形認識の不全と，字義の理解不足や誤解などが見られる。
- f 音訓の書き取りは，訓の方が音より悪いと一概にはきめられない。

また，漢字に対する関心や意見などから，漢字に興味をもたせることも大事だと思われる。

調査の方法や内容には不じゅうぶんなところがあり，結果の処理もはなはだ不じゅうぶんであった。ことに調査Ⅱとの関連を追求する必要があるとも思うが，計画の不備を感ずる。今後は実態の分析をもっとしなければならぬ。また，中学から高校への変化の分析もしたい。

この調査研究を行なうにあたり，重要な時期に快く調査に協力してくださった各学校の校長先生，教頭先生，関係諸先生，ならびに生徒諸君に深く感謝の意を表します。

この調査研究を担当し，結果をまとめ執筆したのは竹内三一郎です。

参 考 資 料

- | | | | |
|---------|--|-------|---------|
| 文 部 省 | 児童生徒の漢字を書く能力とその基準 | 昭和27年 | 明治図書出版 |
| " | 中学生・高校生の漢字を読む力 | 昭和34年 | 教育出版 |
| 国立国語研究所 | 昭和41年度 国立国語研究所年報—18— | 昭和42年 | 国立国語研究所 |
| 文 化 庁 | 昭和43年度漢字の習得状況に関する調査
—— 当用漢字調査の50音順成績表 | | (謄写) |
| 阪本一郎 | 教育基本語彙 | 昭和33年 | 牧 書 店 |